

第4回公認心理師試験

解答入力結果分析

2021/10/04

プロゴス

第4回公認心理師試験のプロログスの解答入力フォームに解答をご入力いただいた皆様ありがとうございました。入力いただいたデータを元に、今回の試験について分析しました。

1. データについて

使用したデータは9/22 10:20時点の1118件で、そのうちデータ入力がきちんとなされていないもの(例えば複数選択のものを一つも複数選択していない、もしくは途中までしか入力されていない)を除いた1102件を対象とした。

また、この分析はプロログスで作成した解答速報が正解と「想定して」作成している。ただし、現在プロログスの作成した速報のうち数問は解答が不明であり、あくまでも目安としての分析となる。

2. 全体の得点について

これまでと同様に事例問題が3点、知識問題が1点であるとする、今回のデータの概要は以下の通りとなる。

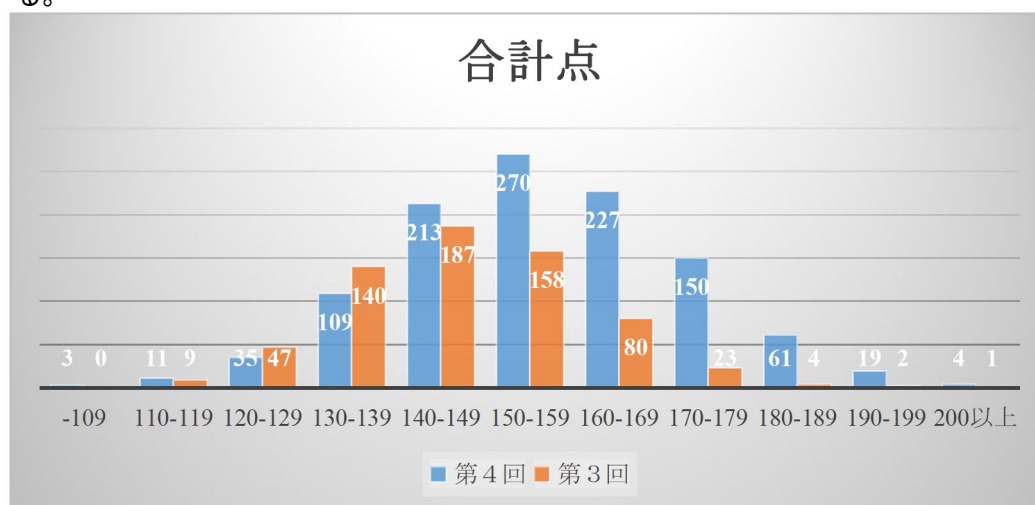
全体の得点概要

平均点	156.5点(得点率 65.8%)
標準偏差	16.1
最大値	202点
最小値	100点

合格ラインが例年どおりであれば、230点満点で138点以上が合格と想定されている。これを基準にすると1102件中973件(88.3%)が合格となる。

ただし、解答入力フォームに入力した人は、試験に自信がある人、プロログスの受講生、情報収集能力が高い、といったことが想定されるため、受験生全体からすると偏った母集団のデータと考えられ、実際の受検者全体の平均点はこれよりも下回ると想定される。なお、昨年入力されたデータの合格者率が最終解答を使用したところ74.7%だったが実際の公開されている受験者の53.4%であり、かなり「自信のある」人だけが入力をしていたということが予想される。

なお、具体的なデータがないので、完全な推量だが、第4回の公認心理師試験の合格率は70%前後と予想している。



合計点の比較

得点分布

得点分布	今年	昨年
-109	3	0
110-119	11	9
120-129	35	47
130-139	109	140
140-149	213	187
150-159	270	158
160-169	227	80
170-179	150	23
180-189	61	4
190-199	19	2
200 以上	4	1

合計点についてももう少し詳しく得点率で見ると、今回の試験の合格点を138点(60%)とする87.9%がクリアをしているが、70%以上の得点者は39.8%であり、80%以上の得点者は4.4%であり、やはり7割を目指す試験であるといった難易度であることが分かる。

また、残念ながら60%に届かない人も、97.0%は55%以上の得点率だった、たとえ合格しなかったとしても多くの人が「あと事例問題2問合っていれば合格ラインに達していた」と言える。ただし、この資料のすべてのデータと同じく、あくまでも今回の入力した人の範囲内という条件である。

そう考えると、昨年も同じことを書いたが、やはり知識も大事なことから当日の体調や気合いなど、「最後のひと転がり」が合否の分かれ目になると考えられる。もちろん、当日の体調などに全てをかける訳はいかないので、あらかじめ体調が悪くても、気分が乗らなくても合格できるだけの知識を身に付けておくことが、当初の目標であることは間違いがない。

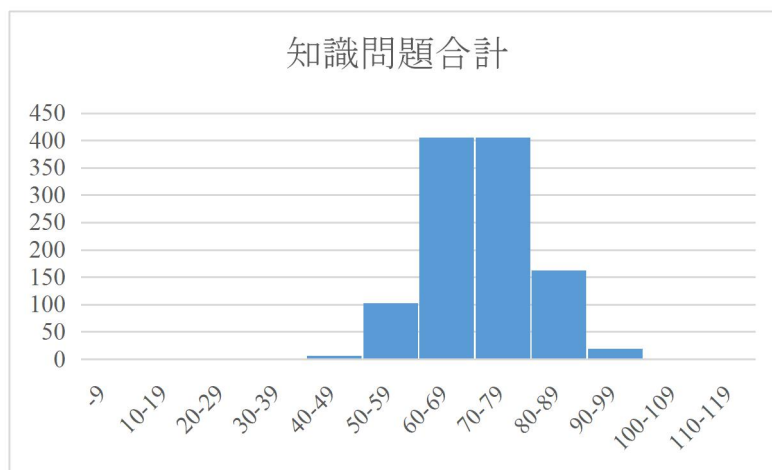
3. 知識問題の得点について

知識問題 116 問(116 点満点)の得点についてのデータ概要は以下のとおりである。

知識問題の結果概要

知識問題平均点	70.5 点(得点率 60.8%)
標準偏差	8.8
最大値	96 点
最小値	45 点

60%を基準値とすると、60%以上取れた回答者は586人で53%だった、昨年は205人(全体の21.9%)だった。また、昨年の平均点は64.2点だったので平均点が約6点上がっている。これを見ると知識問題は今年はかなり易くなっていると考えられる。



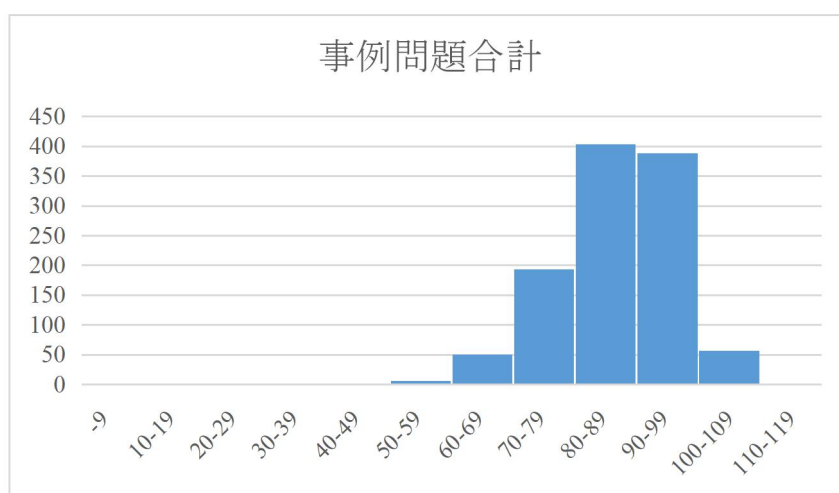
4. 事例問題の得点について

事例問題 38 問(114 点満点)の得点についてのデータ概要は以下のとおりである。

事例問題の結果概要

知識問題平均点	85.9 点(得点率 75.4%)
標準偏差	9.4
最大値	114 点
最小値	48 点

60%を基準値として、60%以上取れた人は 1067 人(全体の 96.8%)であり、事例問題だけで見ればほとんどの人が合格圏内にいたといえる。なお、事例問題の平均点は昨年の 81.6 点から4点ほど上がっている。



5. 知識問題と事例問題の得点率について

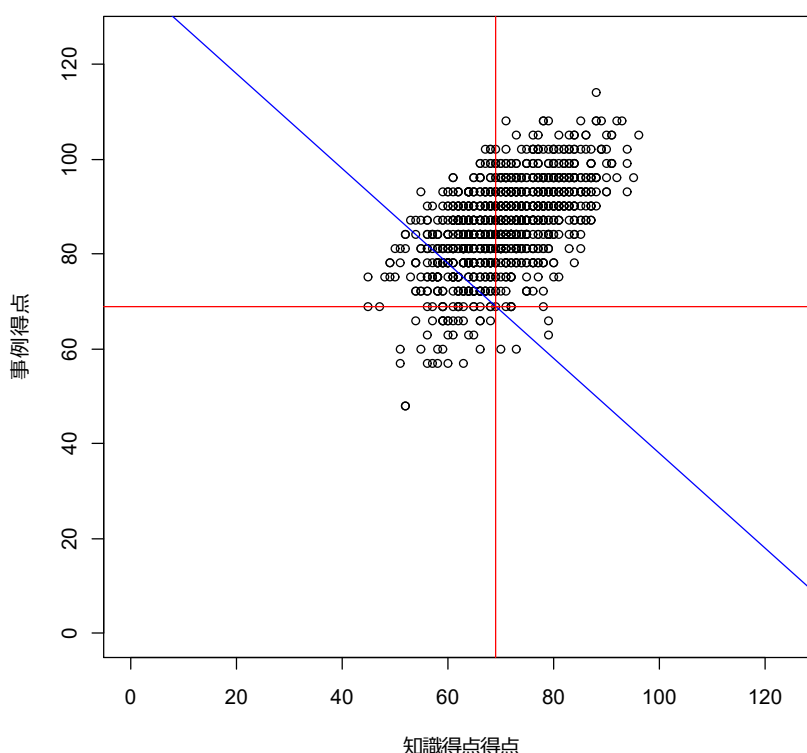
回答者の平均点データで見ると、事例問題の方が知識問題よりも約 14%正答率が高かったが、昨年は 15%の差だったので、知識問題と事例問題の難易度の違いはほぼ昨年と同様と考えられる。

事例問題と知識問題の難易度が分かるグラフを下に記載する。これは回答者の事例問題と知識問題の

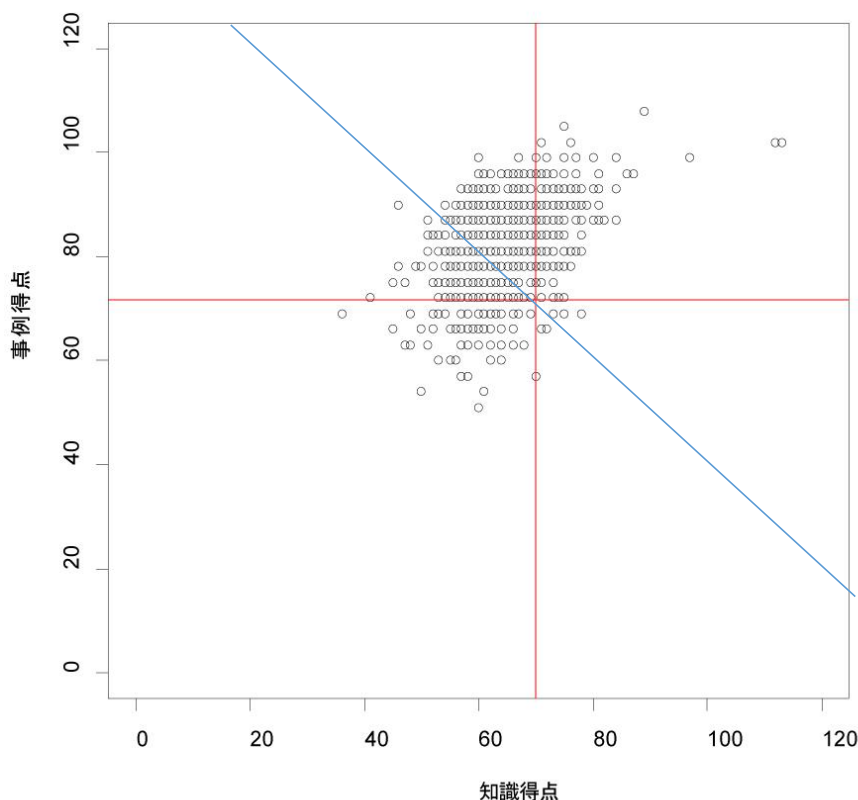
得点散布図であり、縦軸に事例問題の得点を横軸に知識問題の得点をプロットした。

図中の赤線は事例、知識問題のそれぞれで、60%得点した時のラインである。2つの赤線で区切った右上は知識問題・事例問題の双方とも60%を超えたデータ、右下が知識問題は60%を超えたが事例問題は60%越えなかったデータ、左上が事例問題は60%を超えたが知識問題は60%を越えなかったデータ、左下は知識問題・事例問題の両方とも60%を越えなかったデータを示す。なお、水色の線は、およそこの線上よりも右上にある解答者が合格であることを示す。

この図を見ると、今回の試験では、知識・事例ともに合格ラインに達している人も多く、また、知識問題でのロス事例問題で取り返した人も同様に多いことが分かる。さらに第3回のデータと比較すると、全体的に右上に寄っていることが分かる。



事例問題の点数と、知識問題の点数の散布図(第4回)



事例問題の点数と、知識問題の点数の散布図(第3回)

6. 問題形式や難易度と正解率について

ここからは個々の問題の正解率について見てみる。

知識問題と事例問題の正答率については、先ほどの記載したように知識問題は正解率が低く、事例問題は正解率が高い。

問題種別ごとの正解率

問題種別	正解率	問題数
全体	65.8%	154
知識問題	60.8%	116
事例問題	75.4%	38

次にプロロゴスの講師が想定した問題ごとの難易度と、それぞれの正解率を出す。これはあくまでも講師の主観の難易度と問題の実際の難易度の差であり、それほど意味はないと考えている。なお、★は「基本的な知識だったり、過去問をやっていれば解ける問題」、★★は「応用的な問題やより深い知識が必要といったやや難しい問題」、★★★は「これは解けなくてよいという問題」としている。

想定難易度ごとの正解率(第4回)

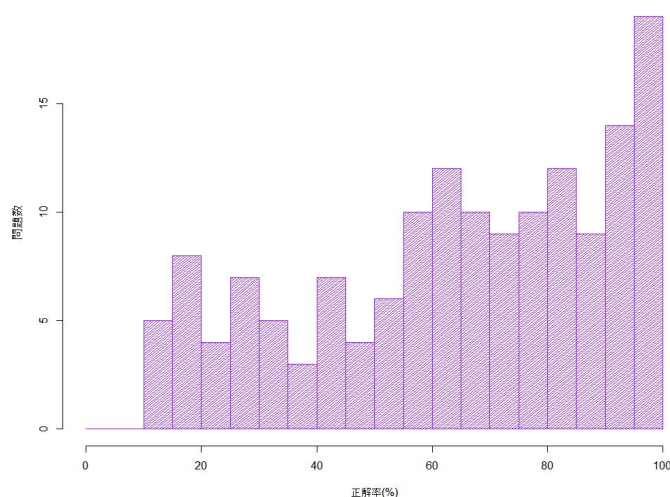
難易度	正解率	問題数
難易度★	79.8%	81
難易度★★	55.2%	34
難易度★★★	40.5%	39

想定難易度ごとの正解率(第3回)

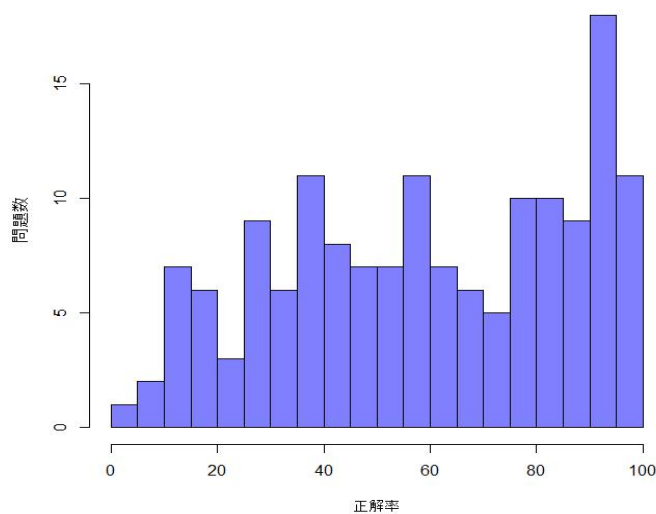
難易度	正解率	問題数
難易度★	76.2%	64
難易度★★	56.6%	43
難易度★★★	38.9%	47

これを見ると、範囲度の判定(★の数と難易度のバランス)は第3回とは変わっていないものの難易度が易しい問題が増えていることがやはり分かる。

次に問題ごとの正解率のヒストグラムを記載する。



正解率ごとの問題数(第4回)



正解率ごとの問題数(第3回)

これを見ると、今回はほぼ取れる問題(80%以上の人が正解)が35%あるが、全体としては多くの問題の正

解率は比較的ばらついて分布していた。ただし、今回は中難易度以上のもの(勉強していたら取れる問題と考えられる)も、前回よりも比較的多かったことが分かる。

正解率ごとの問題数(第4回)

正解率	問題数	割合
90%以上	33	21.4%
80%～90%まで	21	13.6%
70%～80%まで	19	12.3%
60%～70%まで	22	14.2%
50%～60%まで	16	10.4%
40%～50%まで	11	7.1%
30%～40%まで	8	5.2%
20%～30%まで	11	7.1%
10%～20%まで	13	8.4%
10%より低い	0	0.0%

正解率ごとの問題数(第3回)

正解率	問題数	割合
90%以上	29	18.8%
80%～90%まで	19	12.3%
70%～80%まで	15	9.7%
60%～70%まで	13	8.4%
50%～60%まで	18	11.7%
40%～50%まで	15	9.7%
30%～40%まで	17	11.0%
20%～30%まで	12	7.8%
10%～20%まで	13	8.4%
10%より低い	3	1.9%

また、公認心理師試験は基本的に5肢択1の問題であるが、一部4肢択1と5肢択2の問題が出ている。これらの正解率について知識問題と事例問題それぞれで見ていく。

知識問題の問題形式ごとの正解率

問題形式	正解率	問題数
5肢択1	59.5%	90
4肢択1	73.8%	16
5肢択2	51.2%	10

事例問題の問題形式ごとの正解率

問題形式	正解率	問題数
5肢択1	76.4%	35
4肢択1	67.4%	1
5肢択2	61.9%	2

昨年は5肢択2は、5肢択1よりも簡単だったが、第4回は難しくなっていたことが分かる。ただし、第4回試験はそもそも問題数が少ないので、特に事例についてはあまり数字が参考にならないと考えられる。

8. まとめと、あとがき

昨年の第3回の公認心理師試験は多くの方の実感の通りに「簡単な事例問題」と「難しめの知識問題」から構成されていたが、第4回の公認心理師試験は、事例問題と知識問題の難易度バランスは第3回と同様だったように思われる。

問題を見ていると分かりづらい問題というのも少なくなってきたおり、受験生がより対応しやすい問題になってきているように思われる。また、平均点や各問題の難易度を見ていると、明らかに第3回よりも第4回の方が易くなっている。ただし、今回のデータ入力にご協力いただいた方は、ある意味「データ入力をしてほしい」と判断した、比較的優秀な人であり、このデータの範囲での平均点は156点であるが、実際の平均点は142-146点程度(合格率70%前後)と推測している。そのため、この資料を見て、とても簡単だった、というのは言い過ぎである。

平均点が上がったのは、第2回、第3回の試験が難しかったため、そこで残念な結果だった受験生が気合を入れて試験に臨んだことが、要因の一つだったのではないかと推測している。公認心理師試験は、大学受験のように定員数の決まっている相対値の試験でなく、基準を満たすかどうかの絶対値の試験であり、また前回の不合格者がさらに勉強を重ねて次の試験に臨む試験でもある。

また、一部動画サイトで良質な解説などが増えたこともその原因であるかもしれない。実際に、過去問の事例問題を見ていると、第1回、第2回では悩む問題も多かったが、ノウハウが蓄積されているために第4回では問われているポイントが比較的わかるようになっていると思われる。

ここから先は、公開が遅くなった言い訳になるが、実は想像以上に今回の平均点などが高かったため、この資料を公開するのをためらってしまった。

たしかに「平均点が高いのを見ると落胆する」、「各社がいろいろ情報を出して、混乱する」という声も確かにある。一方で、ほとんどの予備校が情報を出さず受験生が苦しんでいた第一回の北海道追加試験のことを思い出すとやはり、一つでも資料を作っておき、興味がある人が読んでもらえれば、と思う。

私の最も好きな言葉である、シャルトルのベルナールの言葉(もっと前からある言葉ともいわれているが)の「巨人の肩の上の小人」の役割を少しでも果たせたなら幸いである。

A. 付録 問題ごと正解率

問題	正解率 (%)				
1	84	36	25	73	58
2	82	37	83	74	92
3	100	38	20	75	87
4	67	39	51	76	67
5	49	40	47	77	87
6	63	41	94	78	96
7	31	42	58	79	96
8	89	43	54	80	92
9	67	44	61	81	72
10	17	45	90	82	13
11	20	46	97	83	56
12	27	47	98	84	37
13	62	48	77	85	52
14	66	49	28	86	40
15	79	50	64	87	84
16	25	51	97	88	44
17	76	52	30	89	29
18	59	53	73	90	18
19	54	54	19	91	79
20	89	55	69	92	78
21	15	56	61	93	73
22	81	57	21	94	34
23	23	58	78	95	43
24	26	59	63	96	11
25	71	60	90	97	41
26	72	61	63	98	78
27	57	62	96	99	55
28	88	63	95	100	57
29	65	64	97	101	59
30	12	65	94	102	33
31	43	66	93	103	75
32	98	67	72	104	96
33	43	68	80	105	83
34	94	69	20	106	51
35	83	70	90	107	46
		71	58	108	50
		72	77	109	19

110	98
111	19
112	29
113	92
114	84
115	52
116	98
117	63
118	94
119	80
120	63
121	92
122	39
123	93
124	93
125	77
126	77
127	45
128	58
129	97
130	82
131	70
132	81
133	13
134	32
135	72
136	70
137	11
138	66
139	88
140	60
141	73
142	88
143	65
144	93
145	94
146	20
147	66
148	67

149	96
150	97
151	97
152	99
153	97
154	37